

寒川鼠骨 きつねぼね 俳人。明治七年十月二十一日愛媛縣生れ、昭和二十

九年八月十八日歿（二七五—九七）。本名陽光^{あきみつ}。別號一見生、曾古都、

源陽光、藤陽光鼠骨、鼠、鼠音坊等。明治二十八年第三高等學校中退。

二十一年新聞「日本」入社、うち雜誌「日本及日本人」編輯など。正

岡子規の親多し、その歿後全集編纂、子規庵保存等、盡力。

著書「新囚人」（明治二十四年二月、千四百ほとこぞの發行所）、可斷

霞録」（明治三十四年六月、千八百新聲社）、可俳文作法指南」（明

治二十六年七月七日大學館）、可寫生文集」（合著・四方太編、明治

二十六年九月十八日俳書堂）、可俳句入門叢書」（一・内藤鳴雪可俳

句獨習」編・明治二十六年十一月二十一日、六可俳句新感事記」（二十

七年十一月二十六日、七可春夏大家模範俳句集「内藤鳴雪共選・二十八

年四月十七日、八可初學自習俳句案内」（五月十一日、十可冬秋大家模範俳句

集」内藤鳴雪共選・十一月十五日、十一可大家俳句鍊（鍊）習談」（十月

二十五日大學館）、可初學俳句叢書」（一可運送俳句會必用全集」明

治二十九年二月八日、二可芭蕉蕪村俳句全集」編・二月十日、三可四

季芭蕉七部集俳句全集」編・三月十八日、十可秋明治名家俳句集」

編・十一月二十五日、十一可春夏子規俳句評釋」四十年四月二十八日、

十二可秋冬子規俳句評釋」八月四日、十四可春夏芭蕉十哲俳句評釋」内藤

鳴雪屬及評・四十二年二月二十日、十七可俳句熟語字彙」椎名昇龍共

編・九月一日、十八可五畿八道各所旅行俳句集」同・四十二年十一月十日、

二十可明治選者句集」富取芳河土共編・大正元年八月八日、二十一可續

芭蕉俳句評釋」二年七月十五日大學館）、可新寫生文」（坂本四方太

合著、明治四十一年一月一日東京亞墨書房）、可子規集寒山落木より」（編、

大正四年十一月十五日政教社)、
額田 豊 講評 『天然生活法』

高橋耿介共譯、大正六年七月、二十日大阪屋敷書店)、
道中 藤栗毛輪

講』(共著。二田村篤翁編、大正六年九月、二十五日、駿遠の巻・七年

七月十五日大阪屋敷書店)、
可保句の先生』(大正七年二月十日止善

尚書店)、
可保句の先生』(大正九年一月五日微部中陽堂)、
可清水禪

節逸事』(「清水禪師逸事」)
可保句の先生』(編、大正十四年五月十八日政教社)、

中村不折撰集 『文字八存』(説明、大正十五年十一月十六日自編刊、

書齋社)、
可馬庵全集』(編、昭和二年一月十二日政教社)、
可わお

草』(本名、
香取秀真 蔵 榎堂共選、昭和四年四月、二十日規庵歌會)、
可寒川

風骨集』(昭和五年五月十八日改造社)、
可子規歌論歌話』(本名、

編、昭和六年六月、二十日改造社「改造文庫」)、
可季題 例句 歲事記大觀』

(編、昭和九年八月、二十五日香蘭社書店)、
正岡子規論著 『歌壇叢書』

(例言、昭和十一年九月、二十日巧藝社)、
可子規畫日記 可子規繪畫觀』全二册(編、

昭和二十四年十一月、二十日新房)、
可隨政子規居士』(昭和二十七年

十月、二十五日橋書房)、
可正岡子規の世界』(柴田齊曲編集註解、昭

和二十一年十月十五日青蛙房)等。